

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：33918

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04261

研究課題名(和文)固有性・専門性の提示を旨とするベテラン医療ソーシャルワーカーの実践行動と根拠の解明

研究課題名(英文) Presentation of uniqueness and expertise by elucidating the practical behavior and basis of veteran medical social workers

研究代表者

保正 友子 (Hosho, Tomoko)

日本福祉大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：80299859

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：高い実践能力を有すると考えられるベテラン医療ソーシャルワーカー(MSW)9人より、3つの事例を提供してもらった。それを研究者とベテランMSWの4人のチームで分析し、どのようなベテランの実践能力が表れているのかを明らかにした。

その結果、48のコードと13のカテゴリーが生成された。それらは、MSWの実践能力の3側面である 価値・知識・技術を統合して発揮する力、各種システムとの関係構築を行う力、専門的自己を確立する力がバランスよく含まれていた。さらに、この知見を20年前のオーストラリアの研究知見と照合したところ、その知見を跡付けるものと現在の日本の病院内外の状況に規定される項目がみられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで解明されてこなかった、ベテランMSWの実践能力の特徴について解明を試みたものである。

それにより、成長途上の人々たちにとっての成長のビジョンを提供することができる。また、ソーシャルワーカーを養成する教育や現任者研修によって、どのような点を修得する必要があるのかについて検討するための足掛かりとなると考える。

研究成果の概要(英文)：In this study, 9 experienced medical social workers (MSW) with high practical skills provided 3 cases. A team of four researchers and veteran MSW analyzed and clarified what kind of practical competence the veterans are demonstrating. As a result, 48 codes and 13 categories were generated. MSW has three practical competence: (1) the competence to integrate and demonstrate value, knowledge, and technology; (2) the competence to build relationships with various systems; and (3) the competence to establish oneself as a professional. It includes two aspects in a well-balanced manner. This finding was then cross-checked with findings from an Australian study 20 years ago, tracking the results, some of which were influenced by the current situation in and outside of Japanese hospitals.

研究分野：ソーシャルワーク

キーワード：医療ソーシャルワーカー ベテラン 実践能力 熟達化 事例

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省は 2015 年 9 月に提出した、『誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現 新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン』を嚆矢に、『ニッポン一億総活躍プラン』(2016 年 6 月閣議決定)、『地域包括ケアの深化・地域共生社会の実現』(2016 年 7 月)と、一連の社会福祉改革案を明らかにした。そこでは分野横断的で包括的な相談支援の必要性和、そのための「コーディネーター人材」の育成・確保が提唱されている。さらに、2019 年 12 月の『地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会(地域共生社会推進検討会)最終とりまとめ』でも、地域共生社会の実現に寄与する専門職の役割がクローズアップされている。

しかし、これらの文書にソーシャルワーカー(以下、SW)の名称は入っておらず、多くの職種が担う余地が大きい。そのため、SW の実践の固有性・専門性の提示は急務の課題である。

2. 研究の目的

そこで本研究の目的は、研究代表者がこれまで取り組んできた研究を踏まえ、ベテラン医療ソーシャルワーカー(以下、ベテラン MSW)が複数の実践場面においてどのような根拠に基づき何を行ったのかという、実践行動とその根拠に共通した特徴を解明することである。それにより、MSW 実践の固有性・専門性の提示のみならず、他領域の SW 実践の固有性・専門性への足がかりが得られると考える。

3. 研究の方法

調査協力者

本研究の調査協力者は、三つの要件に該当する人を研究代表者の知り合いの SW・大学教員の紹介という機縁法により、複数県の MSW 協会より選定した。第一は、15 年程の MSW 経験があること。これは、以前の研究(保正 2013)で実践の質や職業的アイデンティティの確立から経験年数 15 年以上をベテランと設定しており、今回も 15 年以上であればベテランと判断できると考えた。第二は、所属機関種別を問わず現役の MSW であること。熟達者にはジェネラリストとしての共通基盤があると考え、所属機関種別を限定していない。第三は、各方面でリーダーシップをとっていること(職能団体役員、相談室長や病院管理職という役職者、スーパーバイザー、大学院修了、実践研究の実施、審議会委員等)である。これは、熟達した実践能力の保有を担保する外形要件を課す必要があると考えたためである。なお、紹介者には「誰が見ても高い実践能力を有していると判断できる人」の推薦を依頼した。その結果、9 人の MSW に協力者になってもらった。

事例分析チームの結成

本研究では研究枠組みを検討する時点から、研究代表者を含めた研究者 2 人と現任 MSW2 人の計 4 人で、事例分析チームを立ち上げた。チームで事例分析を実施した理由は 2 点ある。第一は、複数の視点からデータを眺めることをとおして、分析の偏りを修正し結果の一般性を担保するためである。第二は、研究代表者も MSW 実践経験を有しているものの、業務に携わったのは 6 年間のみで、経験年数ではベテランの域に達していない。そのため、実践能力の高いベテラン MSW の実践を分析するには、実践の質を見極められるべ

テラン MSW の視点が不可欠なためである。

事例の収集と分析

事例収集にあたっては、事例分析チームで検討した要件に基づき次の依頼を行った。調査協力者自身が取り組んだ、ベテランらしさが現れていると考える 3 例の事例概要を、準備した事例検討シートに書いてほしい。その際、幅広い事例の収集を目指し、可能な限りミクロ・メゾ・マクロの展開事例を選定してほしい。なお、事例シートの項目は、事例タイトル・事例を選定した理由・事例の概要・アセスメントやアプローチの根拠、感じたこと・考えたことである。

面接調査は、2017 年 7 月～2019 年 11 月に研究代表者が実施した。面接の際には、あらかじめ送付しておいた事例シートに記入してもらい、それに基づきながら 3 事例の展開とその時々のアプローチで考えたことを語ってもらった。調査の際は、許可を得て IC レコーダーに録音し後に文字化した。

事例分析は、あらかじめチームメンバーが事例データに目を通し、熟達者としての卓越した実践能力が表れていると考えられる部分をチェックして持ち寄り、合議によりコード化を行った。その後、コード表を作成しコード名の修正や追加がある毎に、これまで分析した事例データも見直して、そのコードが該当するかどうかの確認を行った。

9 人の事例分析は、2017 年の研究開始から 2020 年 4 月までに計 11 回集まり行った。なお 2020 年 4 月以降に、2019 年度にインタビューを実施した 2 人の 6 事例の分析を対面で行う予定であったが、コロナ禍で集合が困難になったため、各自が分析しコード化した 6 事例を研究代表者に送付してもらい、研究代表者の方で統合した。

4. 研究成果

現時点では、9 人中 1 人の A さんの分析を行ったため、その結果を記す。

A さんの実践能力を抽出した結果、実践能力コードは 48 生成し、類似のコードを 13 カテゴリーにまとめた。そして、それらのカテゴリーを研究代表者がこれまでに定義（保正 2013）を行った MSW の実践能力の 3 側面（価値・知識・技術を適切に統合して発揮する力、各種システムとの関係構築を行う力、専門的自己を確立する力）にプロットしたのが表 1 である。

表 1 A さんの実践能力カテゴリー表

能力	カテゴリー	実践能力コード	定義
価値・知識・技術を適切に統合して発揮する力	クライアントの理解	クライアントの全体像の理解	クライアントの人となりや生活状況を含めた全体像を理解する
		強みへの着眼	クライアントと取り巻く環境の強みに着眼する
		患者の病状の理解	患者の病状を理解し支援にいかす
	徹底したクライアントの権利擁護	代弁機能	クライアントの意向を代弁する
		クライアントの尊重	クライアントの意思や権利を尊重する
	的確な支援技術	高度な面接技法	相手に合わせて多様でレベルの高い面接技法を駆使する
		生活場面からの洞察	クライアントの生活場面から抱えている問題を見抜く
		情報提供の工夫	相手の理解度や状況にあわせた情報提供の工夫を行う
		効果的な交渉の実行	スムーズな支援にむけて効果的な交渉を行う

		理論に基づくアセスメント	理論に裏付けられたアセスメントを行う	
		家族機能の評価とアプローチ	家族機能を適切に評価し働きかける	
	相手の状況にあわせた多様で柔軟なアプローチ	クライアントに対するポジショニング	クライアントに対する自己の適切なポジションを認識し行動する	
		戦略的アプローチの実行	スムーズな支援にむけて戦略を立てて行動する	
		臨機応変なアプローチ	状況に合わせて多様なレパトリーを活用し、臨機応変に働きかける	
		支援ツール・システムの開発	必要に応じて、新たな支援ツールやシステムを開発する	
		相手にあわせた関係形成	相手にあわせて必要な関係形成を行う	
		先を見通しながらの展開	予測に基づくアプローチ	これまでの経験や理論に基づき結果を予測しながら働きかける
		短時間でのプラン策定と実行	短時間で求められるプランを策定し実行する	
		リスクの回避	予測されるリスクを回避する	
	各種システムとの関係構築を行う力	実行力のあるチームアプローチ	チームでのアセスメントの共有	支援チームでアセスメントを共有するよう働きかける
			チームアプローチの提案	必要なチームアプローチを提案する
			信頼関係に基づくネットワーク構築	日頃から信頼関係に基づくネットワークを構築している
サポート体制の構築			ケースに応じたサポート体制を構築する	
チーム方針の再編成			必要に応じて支援チームの方針を再編成する	
チームの士気を高める			支援チームの士気を高めるよう働きかける	
効果的な組織アプローチ		院内の多職種の深い理解	院内の多職種を深く理解している	
		院内組織の深い理解	院内の組織を深く理解している	
		組織内のパワーバランスの活用	組織内のパワーバランスを把握し活用する	
		組織に対するポジショニング	組織内での自己の役割を意識的に認識し行動する	
		組織マネジメントの実施	組織内で必要なマネジメントを行う	
効果的な地域アプローチ		地域アセスメント	地域のアセスメントを行う	
		地域における自組織のポジショニング	地域における自組織の適切なポジションを認識し行動する	
		他機関・多職種のアセスメント	支援にいかせるよう他機関・多職種のアセスメントを行う	
効果的な社会へのアプローチ		社会に対するポジショニング	社会に対して適切なポジションを認識し行動する	
幅広い発信機能		地域課題としての発信	クライアントの生活圏域内の地域課題を認識し発信する	
		社会問題としての発信	社会の矛盾・不合理から起こる一般的な問題を認識し発信する	
		実践を政策に反映させる視点	自らの実践を政策に反映させる視点を持ち行動する	
専門的自己を確立する力		MSW 専門職としてのアイデンティティ確立	MSW としての信念	MSW として譲れない信念を持ち業務を行っている
			MSW の覚悟	MSW として覚悟を決めて行動する
			MSW の醍醐味の実感	MSW 業務の本当の愉しさや深い味わいを感じている
			リーダーとして医療・福祉を牽引	多様な場面でリーダーとして医療・福祉を牽引する
		MSW のポジション確立	MSW の質担保への責任	MSW 業務の質の担保に責任を負う
	人材育成体制の構築		人材育成にむけた体制を構築する	

		裁量権の獲得	自らが物事を動かしたり、影響を与える意思決定権を獲得してきている
		業務マネジメントの実施	必要に応じた業務のマネジメントを行う
効果的なスーパービジョンの実施	バイザーにあわせたスーパービジョンの実施	スーパーバイザーにあわせたスーパービジョンを実施する	
	スーパーバイザーとしての課題の自覚	スーパーバイザーとして多様な課題を自覚している	
	学び続ける機会の設定	自他が学び続ける機会を設定する	

表1では、価値・知識・技術を適切に統合して発揮する力には、【クライアントの理解】【徹底したクライアントの権利擁護】【的確な支援技術】【相手の状況にあわせた多様で柔軟なアプローチ】【先を見通しながらの展開】が含まれた。各種システムとの関係構築を行う力には、【実行力のあるチームアプローチ】【効果的な組織アプローチ】【効果的な地域アプローチ】【効果的な社会へのアプローチ】【幅広い発信機能】が含まれた。専門的自己を確立する力には、【MSW 専門職としてのアイデンティティ確立】【MSW のポジション確立】【効果的なスーパービジョンの実施】が含まれた。

以上のように、Aさんの3事例には実践能力の三側面がバランス良く含まれており、さらに、二層の下位能力(カテゴリー・実践能力コード)の存在が読み取れた。

また、これらの知見を20年前にオーストラリアで行われた同様のFookら(Fook, J.Ryan, M. and Hawkins, L. 2000)の調査知見に照らし合わせたところ、Aさんの特徴はFookらの知見を跡づけるものとなった。ただし、熟達者の特徴は時間的・空間的な規制を受けないものばかりでなく、【MSW のポジション確立】【効果的なスーパービジョンの実施】のように現在の日本における病院内外の状況に規定される項目も存在していた。

<引用文献>

Fook, J.Ryan, M. and Hawkins, L. (2000) *Professional expertise : practice, theory and education for working in uncertainty*, Whiting and birch.

保正友子 (2013) 『医療ソーシャルワーカーの成長への道のり - 実践能力変容過程に関する質的研究』相川書房.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 保正友子	4. 巻 147
2. 論文標題 事例分析にみる熟達した医療ソーシャルワーカーの実践能力	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本福祉大学 社会福祉論集	6. 最初と最後の頁 31 58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 保正友子・江村宏子・太田聡子・檜木博之
2. 発表標題 事例のメタ分析に基づくベテラン医療ソーシャルワーカーの実践能力
3. 学会等名 第67回日本医療社会福祉協会全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------